

目次

教師海外研修について

◆ はじめに	2
◆ 教師海外研修とは	3
◆ 教師海外研修の流れ	4
◆ 海外研修国の概要	5
◆ 海外研修の日程	6
◆ 海外研修訪問	7
◆ 研修参加者氏名	9

実践授業報告

小学校(4名)

◆ 石川 舞(横浜市立本町小学校)	11
「「どうぶつ おとあそび」をたのしもう」	
◆ 佐藤 幸(横浜市立井土ヶ谷小学校)	20
「みんなで考えよう、日本と世界の食料生産」	
◆ 山口 祥子(横浜市立梅林小学校)	26
「伝えたい日本の支援～梅林なるほど ザ・ワールドなう～」	
◆ 藤原 悟(藤沢市立亀井野小学校)	35
「いっしょにいきるなかま」	

中学校(2名)

◆ 田中 淳一(横浜市立矢向中学校)	40
「世界の中のニッポン」	
◆ 吉田 友明(横浜市立瀬谷中学校)	46
「国際社会における子どもの人権」	

高校(2名)

◆ 小岩 祥子(横浜市立東高等学校)	51
「知ることから始めよう！世界のこと」	
◆ 大谷 彩美(神奈川県立川崎高等学校)	58
「食を通じて他者を理解する～タンザニアと日本の食文化交流～」	

特別支援(1名)

◆ 福田 千登勢(横浜国立大学教育人間科学部附属特別支援学校)	66
「横浜に住んでいるぼく・私たち、タンザニアに住んでいる友だち」	

同行者より(研修ファシリテーター、JICA 横浜同行者)

※ 本報告書に記載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。

はじめに

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）では、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県内の先生方を対象に、「教師海外研修」を実施しています。本研修は、先生方が開発途上国における国際協力の現場視察や体験等を通じて、途上国の現状や日本との関係について考え、国際協力への理解を深め、その経験をそれぞれの教育現場で、児童・生徒の皆さんに伝え、広げていただくことを目的としています。

平成 25 年度は、神奈川県内各地より 9 名の先生方にご参加いただき、昨年度に引き続き、東アフリカに位置するタンザニアで海外研修を行いました。出発前の国内研修では、タンザニア国概要説明、海外研修に際しての健康・安全対策、教材作成のためのワークショップなどを実施し、先生方は、帰国後の授業実践も視野に入れながら、積極的に準備に取り組まれていました。

海外研修先のタンザニアでは、住民参加型のプロジェクトや学校に配属されている JICA ボランティアの活動現場の視察を通じて多くのことを吸収しました。参加者同士の経験の共有や参加者の学びをより深めるために研修ファシリテーターも同行しました。研修ファシリテーターは、事前事後の国内研修にも関わり、現地でも参加者の学びを引き出してくださいました。

帰国後、先生方は、各学校でそれぞれ工夫をこらし、生徒の皆さんや同僚の先生方の関心を引く大変すばらしい授業実践を行いました。そして、2 月に開催された「よこはま国際フォーラム 2014」の場で、その報告を行い、授業案や素材を紹介し、参加者に国際理解教育・開発教育の実践例を提示しました。また、今年度は、教師海外研修にテレビ神奈川（tvk）が同行しました。海外研修や帰国後の実践授業の様子を番組で紹介することで、多くの方々に知っていただく機会となりました。

本報告書は、研修に参加された先生方が、タンザニアで得た学びや経験を活かした授業実践や取り組みが報告されています。学校現場における総合的な学習の時間、国際理解教育の活動等の参考にしていただけましたら幸いです。

末筆となりますが、本研修にご参加いただいた先生方、ご推薦くださった各学校長の方々に敬意を表するとともに、本研修の実施にあたりご協力をいただきました各教育委員会、研修ファシリテーター、タンザニアでの研修を受け入れてくださった関係者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

平成 26 年 3 月

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター
所長 北中 真人

教師海外研修とは

1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県内の教員や教育委員会指導主事等の皆さん(以下、教師)を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらふことを目的としています。研修参加後は、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらふことを期待しています。

2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察(海外研修)と、海外研修の前後に行う国内研修(事前／事後)の2つのプログラムから成っています。国内研修(事前)では、海外研修への準備としてワークショップ体験・素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修(事後)では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果(教材)を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

3. 応募資格

神奈川県内の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

※詳しい応募資格は、毎年4月上旬に各学校に配布する募集要項、もしくはJICA 横浜ウェブサイトをご参照ください。

4. 海外研修期間

約10日間(8月中旬ごろに実施)

5. 募集時期

4月上旬～5月中旬

(各学校に募集要項を配布いたします。また、JICA 横浜ホームページでも掲載いたします)

6. 応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入の上、JICA 横浜へ郵送またはご持参ください。

7. お申し込み・お問い合わせ

JICA 横浜 市民参加協力課「教師海外研修」担当宛

〒231-0001 横浜市中区新港 2-3-1

Tel: 045-663-3220

Fax: 045-663-3265

E-mail: jicayic-kaihatsu@jica.go.jp

教師海外研修の流れ

国内事前研修

- 第1回：平成25年6月22日（土）
- 第2回：平成25年6月29日（土）午後
- 第3回：平成25年7月20日（土）・21日（日）
- 第4回：平成25年8月10日（土）

開発教育指導者セミナー（初級編）に参加し、開発教育ワークショップの体験をしたり、研修国（タンザニア）の基礎知識と健康/安全管理、教材研究の方法などを学び、海外研修と帰国後の授業実践のための準備を行いました。



海外研修（タンザニア）

- 平成25年8月11日（日）
～同年8月21日（水）



国内事後研修

- 平成25年8月31日（土）

タンザニアで得た体験、写真、資料などを参加者全員で持ち寄り海外研修の振り返りと、教材作りについて話し合いました。



国内事後研修

- 平成25年9月～平成26年1月
- 参加者各自が工夫を凝らし、学校の現場で授業実践を行いました。



国内事後研修

- 平成26年1月11日（土）・12日（日）
- 「開発教育教員セミナー（応用編）」では、開発教育国際理解教育の実践方法について、学びました。



研修報告会（よこはま国際フォーラム 2014）

- 平成26年2月8日（土）

タンザニアでの海外研修を再現する形で、研修での気づきや学びを発表し、その後各参加者が実践授業で使った教材等を紹介しながら、ポスターで授業内容を発表しました。



海外研修国の概要

タンザニア連合共和国 (United Republic of Tanzania)



首都:ドドマ(法律上の首都であり、国会議事堂が置かれている。政府官庁が存在するなど、事実上の首都機能を有し、経済面でも中心となっているのはダルエスサラーム)

面積:94.5 万平方キロメートル(日本の約 2.5 倍)

人口:4,622 百万人(2011 年:世銀)

通貨・為替レート:タンザニア・シリング(1 米ドル=1,582 タンザニア・シリング、2011 年)

民族:スクマ族、マコンデ族、チャガ族、ハヤ族等(約 130)

言語:スワヒリ語(国語)、英語(公用語)

宗教:イスラム教(約 40%)、キリスト教(約 40%)、土着宗教(約 20%)

政体:共和制

主要産業:農業(GDP の約 25%)、工業(GDP の約 21%)、サービス業(GDP の約 52%)
(2009 年:タンザニア中央銀行)

GNI:243 億米ドル(2011 年:世銀)

1 人当たりの GNI:540 米ドル(2011 年:世銀)

経済成長率:6.3%(2011 年:世銀)

主要貿易品目: (1)輸出 金、製造品、綿、タバコ、コーヒー等
(2)輸入 原油、機械、産業資材等

(2009 年:タンザニア中央銀行)

主要貿易相手国:

(1)輸出 スイス、中国、南ア、ケニア、インド

(2)輸入 インド、中国、南ア、アラブ首長国連邦、日本

(2009 年:タンザニア中央銀行)

日本の援助実績: (1)有償資金協力 約 487 億円(2010 年度までの累計)

(2)無償資金協力 約 1,587 億円(2010 年度までの累計)

(3)技術協力 約 699 億円(2010 年度までの累計)

(外務省ホームページより)

海外研修(タンザニア)の日程

NO	日付	時間	訪問場所	滞在先
1	8/11 (日)	19:00	成田国際空港発	機中泊
2	8/12 (月)	13:20	ダルエスサラーム空港(ドーハ経由)到着	ダルエスサラーム
		16:30	JICAタンザニア事務所訪問 ブリーフィング(安全対策)	
		18:30	JICAタンザニア事務所関係者との懇談会	
3	8/13 (火)	9:00	JICAタンザニア事務所訪問 ブリーフィング (タンザニア概要・教育セクター・ガバナンスセクター)	モロゴロ
		14:30	移動(車輦)モロゴロへ移動	
4	8/14 (水)	9:00	移動(車輦)モロゴロ→マセユ村	モロゴロ
		10:00	マセユ村(O&ODプロジェクト視察)	
		19:00	専門家との懇談会	
5	8/15 (木)	8:30	移動(車輦)モロゴロ→マセユ村	モロゴロ
		9:00	マセユ村 O&ODプロジェクト関係者インタビュー(行政関係者、住民)	
		18:00	青年海外協力隊員との懇談会	
6	8/16 (金)	8:30	移動(車輦)モロゴロ→ムグラシ中等学校	モロゴロ
		9:00	青年海外協力隊員活動視察(ムグラシ中等学校)	
		15:00	ミクミ国立公園通過	
7	8/17 (土)	8:30	移動(車輦)モロゴロ→バガモヨ	バガモヨ
		12:00	バガモヨ着 市内視察	
		18:30	青年海外協力隊員との懇談会	
8	8/18 (日)	9:30	移動(車輦)バガモヨ→ダルエスサラーム	ダルエスサラーム
		13:00	ティンガティンガ村等、教材等購入	
9	8/19 (月)	8:30	移動(車輦)ダルエスサラーム→ムクランガ	ダルエスサラーム
		9:30	青年海外協力隊員活動視察(キパランガンダ中等学校)	
		13:00	青年海外協力隊員との昼食会(ムクランガ)	
		14:00	移動(車輦)ムクランガ→ダルエスサラーム	
		16:00	ダルエスサラーム着(教材等購入)	
10	8/20 (火)	9:00	JICAタンザニア事務所報告会	機中泊
		10:30	在タンザニア日本大使館表敬訪問	
		18:20	ダルエスサラーム空港出発	
11	8/21 (水)	17:50	成田空港着(ドーハ経由)、解散	

※ 研修中におこなった振り返りの時間は割愛しています。

海外研修訪問先（1）

1. JICA タンザニア事務所訪問

タンザニアの国の概要や JICA 事業タンザニアへの援助方針、重点分野等について学ぶ。また、本研修のスケジュールや視察先の確認を行い、タンザニア滞在中の安全面、健康面の注意事項や視察予定のプロジェクト（O&ODプロジェクト）や各セクター（教育、ガバナンスセクター）の現状・支援内容を担当職員より説明を受けた。

2. マセユ村（O&ODプロジェクト）訪問

2 日間に渡り、マセユ村を訪問。JICA 専門家や JICA 横浜で研修を受けた経験のある元 JICA 研修員のタンザニア人スタッフよりマセユ村で行われている住民参加型のコミュニティ開発プロジェクトである「O&OD (Opportunities and Obstacles to Development)」プロジェクトについての説明を受けたり、実際に活動現場を訪問する。2 日目には、村人にインタビューをすることで村での生活について聞くことができた。また、日本の歴史や現状についての意見交換や村人との文化交流を行う。



3. モロゴロ市内見学

青年海外協力隊員の案内でモロゴロ市内の本屋やカンガ（東アフリカの地域で衣装や風呂敷として使用されている布）屋、市場などを見学。現地で使用されている教科書や教材、カンガなどを購入。



4. ムグラシ中等学校訪問

青年海外協力隊員（職種：理数科教師）の活動するムグラシ中等学校を訪問。隊員の授業を参観した後、クラスや校庭で日本の紹介（習字、かぶと作り、折り紙、けん玉、相撲）などで生徒との交流や職員室での先生方との意見交換を行う。



5. ミクミ国立公園

ムグラシ中等学校からモロゴロに戻る途中、ミクミ国立公園を通過。キリンや象などの自然動物を観察。



海外研修訪問先(2)

6.バガモヨ市内見学

青年海外協力隊員（2名）の案内でバガモヨ市内を見学。訪問したバガモヨ歴史博物館では、奴隷貿易の拠点だったバガモヨの歴史を知り、その事実衝撃を受けるとともに、タンザニアの歴史について学ぶ機会となった。また、バガモヨで活動する隊員からそれぞれの活動やバガモヨの人々の暮らしについて伺う。



7.ティンガティンガ村訪問

ダルエスサラームのティンガティンガ村（タンザニアの美術工芸品の工房）を訪問。帰国後の授業で使用する教材等を購入。



8.キパランガンダ中等学校訪問

青年海外協力隊員（職種：理数科教師）の活動するキパランガンダ中等学校を訪問。隊員の授業を参観した後、先生方との意見交換やクラスや校庭で生徒と交流し日本の文化紹介を行う。



9.JICA タンザニア事務所での報告会

参加者から海外研修の報告を行い、大西所長および職員より研修で得た学びや参加教員への今後の授業展開について助言をいただく。



平成 25 年度 教師海外研修 参加者氏名

No.	氏名	参加形態	勤務先	教科/学年
1	いしかわ まい 石川 舞	参加者	横浜市立本町小学校	1 学年
2	さとう つかさ 佐藤 宰	参加者	横浜市立井土ヶ谷小学校	5 学年
3	やまぐち しょうこ 山口 祥子	参加者	横浜市立梅林小学校	高学年 少人数
4	ふじわら さとる 藤原 悟	参加者	藤沢市立亀井野小学校	3 学年
5	たなか じゅんいち 田中 淳一	参加者	横浜市立矢向中学校	社会科 2 学年
6	よしだ ともあき 吉田 友明	参加者	横浜市立瀬谷中学校	社会科 3 学年
7	こいわ しょうこ 小岩 祥子	参加者	横浜市立東高等学校	英語 2 学年
8	おおたに あやみ 大谷 彩美	参加者	神奈川県立川崎高等学校	家庭科 1 学年
9	ふくだ ちとせ 福田 千登勢	参加者	横浜国立大学教育人間科学部附属 特別支援学校	中学部 1 学年
10	おの ゆきお 小野 行雄	ファシリテーター	かながわ開発教育センター(K-DEC)	
11	みやもと すみ 宮本 寿美	同行者	JICA 横浜市民参加協力課	
12	たなか こうへい 田中 浩平	同行者	JICA 横浜市民参加協力課	



同行者より

タンザニア所感—開発教育に必要なもの—

開発教育に必要なものは、知識、視点、技術、そして「思い」だ。

一番むずかしく、一番大事な「思い」。

そもそもなにを伝えたいのか、なぜ伝えたいのか、それがはっきりしない授業や講義は、開発についてのレクチャーではあっても、開発教育ではない。僕の考える開発教育は、幸せな社会、平和な世界に積み上がっていくものだ。開発教育の実践者は、まず、自らのその思いから始めなければならない。

今回の研修の最大の成果は、この「思い」を共有できたことだと思う。

現地事務所の方々や協力隊の面々の熱意。行く先々で出会った現地の人たちの優しい気遣い。そして、未来に向かう強い意志。毎日新鮮な感動を味わうことができた。それを受け止め、語り合うことで、みんなの中にその「思い」が積み上がっていくのを感じられたのは、幸せなことだった。

それから「視点」。

それがなぜ起きるのか、どういう方向に進むのか、どうすべきなのか。目の前に起きていることを大きく構造的にとらえる視点を持たないと、見誤るかもしれない。なぜ市場で働いている子どもがいるのか、大人はなぜそれを許しているのか。なぜ道端で沢山の人が野菜を売っているのか、なぜ売れてないのにそれを続けているのか。学校の建物を建て、屋根をつくるのに、なぜ JICA は資金援助をせず、村人たちの労働奉仕を待っているのか。変だ、やめればいい、許せない、などと単純に切って捨てられるような事柄ではなく、大きな構造の中で起きていることだ、という理解ができるための視点の構築。

興奮と疲れの両方をため込んだみなさんに毎晩集まってもらい、話して整理してきたのは、そんなことだったように思う。毎日の参加者のみなさんの新鮮な驚きと興奮を共有させてもらえたことは、僕にとってもとても楽しかった。

帰国後の授業の組み立てのお手伝いがあまりできなかったことは心残りだけれど、さいわい、帰国後もみなさんの熱い思いと行動が続いている。共にそれを伝えていく仲間として、そして平等で幸せで平和な社会をつくる仲間として、これからもお付き合いを。

研修ファシリテーター

かながわ開発教育センター (K-DEC)

小野 Perry 行雄

同行者より

今年度の教師海外研修は、平成 24 年度に続いてタンザニアで実施されました。本研修では、青年海外協力隊が配属されている中等学校や JICA 専門家の活動するコミュニティ開発強化プロジェクトの対象地域の村などを 9 名の先生方と訪問しました。

各訪問先では、様々な課題に取り組む現場で活躍する日本人や現地住民の方の生の声を聴くことができ、実りある 11 日間となりました。

今年度は横浜で「第 5 回アフリカ開発会議 (TICADV)」が開催され、アフリカをテーマにしたイベントやセミナーが数多く開催されました。JICA 横浜は、今後、この TICADV で培ってきたアフリカとの関係性を発展させ、更に一歩前に繋げていきたいと思えます。

また、本研修に参加された先生方には、海外研修や国内の研修、実践授業を通して得られた経験や知識を今後のご自身の授業に生かしていかれることを期待します。

同行者

JICA 横浜 市民参加協力課 宮本 寿美

今年度と昨年度の教師海外研修 (タンザニア) に参加された先生方を中心に教師海外研修の O B / O G 会「Asante! (※「アサンテ」とはスワヒリ語でありがとうの意味)」が平成 25 年 12 月に発足しました。「Asante! (アサンテ)」のこれからの活動や学びの場づくりを楽しみにしています。

今年度の教師海外研修を支えていただいた関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

Asante Sana!

同行者

JICA 横浜 市民参加協力課 田中 浩平

